

新宮市  
在宅介護実態調査  
結果報告書

令和5年3月

新宮市



# 目次

I	調査の概要	1
1	調査の概要	1
	(1) 調査目的	1
	(2) 調査対象及び調査方法	1
	(3) 配布数及び回収結果	1
2	本調査報告書の基本的な事項	1
	(1) 数値の基本的な取り扱いについて	1
II	調査結果	2
1	基本調査項目	2
	(1) 世帯類型	2
	(2) 家族等による介護の頻度	2
	(3) 主な介護者の本人との関係	3
	(4) 主な介護者の性別	3
	(5) 主な介護者の年齢	4
	(6) 主な介護者が行っている介護	6
	(7) 介護のための離職の有無	7
	(8) 保険外の支援・サービスの利用状況	8
	(9) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス	9
	(10) 施設等検討の状況	11
	(11) 本人が抱えている傷病	12
	(12) 訪問診療の利用の有無	14
	(13) 介護保険サービスの利用の有無	16
	(14) 介護保険サービス未利用の理由	17
	(15) かかりつけ医師の有無	20
	(16) かかりつけ薬局の有無	20
	(17) かかりつけ歯科医師の有無	21
	(18) 本人の介護の希望	22
2	主な介護者様用の調査項目	23
	(1) 主な介護者の勤務形態	23
	(2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況	24
	(3) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援	25
	(4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識	26
	(5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護	27
3	要介護認定データ	28
	(1) 年齢	28
	(2) 性別	28
	(3) 二次判定結果（要介護度）	29
	(4) サービス利用の組み合わせ	29
	(5) 訪問系サービスの合計利用回数	30

(6) 通所系サービスの合計利用回数 .....	30
(7) 短期系サービスの合計利用回数 .....	31
(8) 障害高齢者の日常生活自立度 .....	31
(9) 認知症高齢者の日常生活自立度 .....	32

# I 調査の概要

## 1 調査の概要

### (1) 調査目的

新宮市では、高齢者の皆様が健康で安心して暮らすことのできる社会の実現を目指し、令和5年度中に「新宮市高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画」を策定する予定です。この調査は、在宅サービスの在り方の検討を目的として実施しました。

### (2) 調査対象及び調査方法

項目	内容
調査対象	要介護認定を受けている新宮市民（施設居住者を除く）とその家族
調査方法	郵送法
調査時期	令和4年11～12月
調査地域	新宮市全域

### (3) 配布数及び回収結果

配布数	1,000
有効回収数	572
有効回収率	57.2%

## 2 本調査報告書の基本的な事項

### (1) 数値の基本的な取り扱いについて

- ① 比率はすべて百分率（%）で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出している。従って、合計が100%を上下する場合もある。
- ② 基数となるべき実数は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率はnを100%として算出している。
- ③ 質問の終わりに【複数回答】とある問は、1人の回答者が2つ以上の回答を出しても良い問であり、従って各回答の合計比率は100%を超える場合がある。
- ④ 前回調査とは、「新宮市高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画」の策定時に実施した在宅介護実態調査のことです。

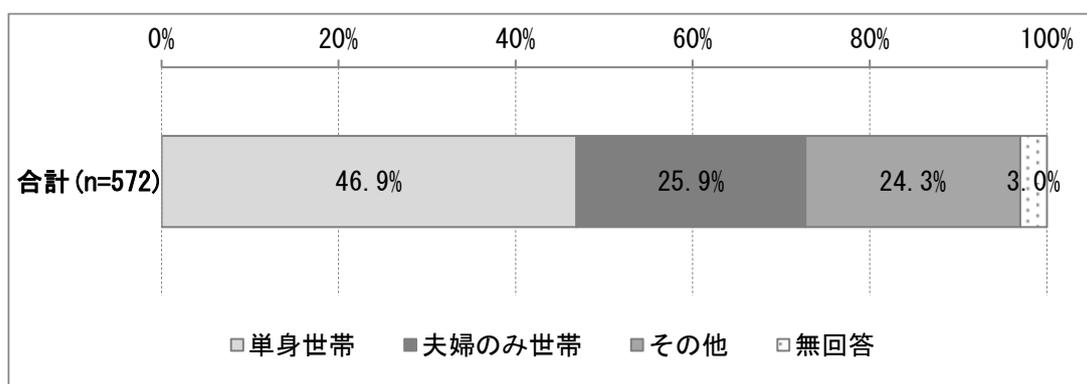
## Ⅱ 調査結果

### 1 基本調査項目

#### (1) 世帯類型

世帯類型については、「単身世帯」(46.9%)、「夫婦のみ世帯」(25.9%)、「その他」(24.3%)となっています。

図表 1-1 世帯類型 (単数回答)

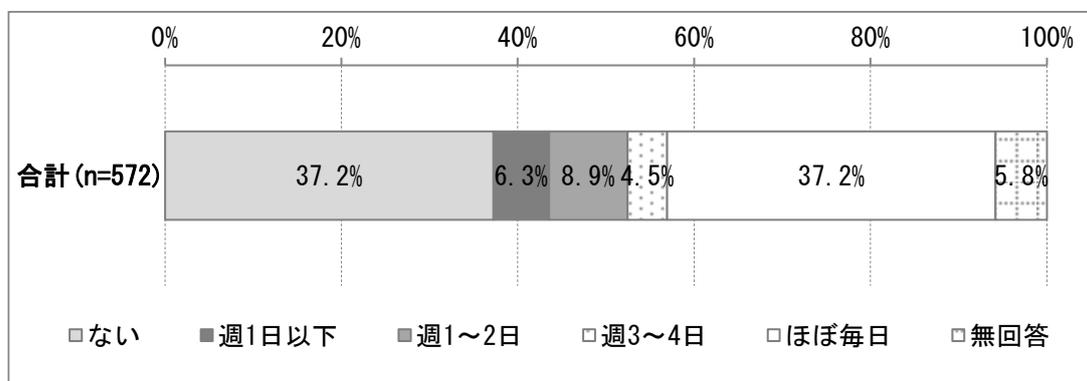


**前回調査比較** 「単身世帯」(47.8%)、「夫婦のみ世帯」(24.4%)、「その他」(22.2%)。

#### (2) 家族等による介護の頻度

家族等による介護の頻度については、「ほぼ毎日」・「ない」(同率 37.2%) が最も多く、次いで、「週1～2日」(8.9%)、「週1日以下」(6.3%)、「週3～4日」(4.5%) となっています。

図表 1-2 家族等による介護の頻度 (単数回答)

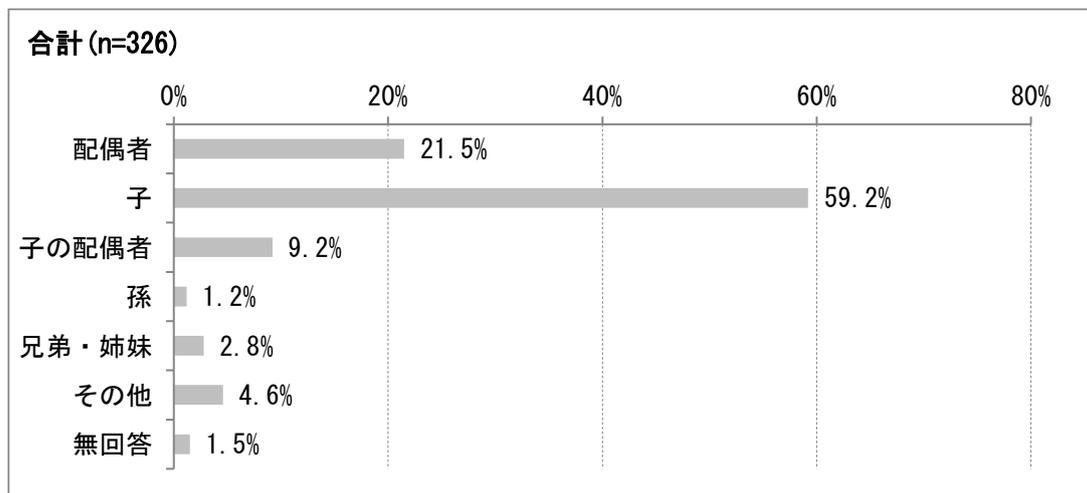


**前回調査比較** 「ほぼ毎日」(38.1%) が最も多く、次いで、「ない」(32.0%)、「週1日以下」・「週1～2日」(同率 7.2%)、「週3～4日」(6.4%) の順。

### (3) 主な介護者の本人との関係

主な介護者の本人との関係については、「子」(59.2%)が最も多く、次いで、「配偶者」(21.5%)、「子の配偶者」(9.2%)などとなっています。

図表 1-3 主な介護者の本人との関係 (単数回答)

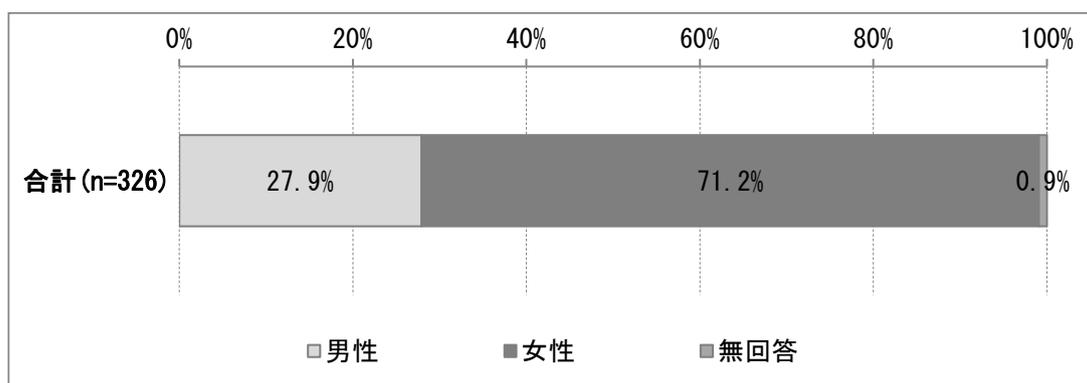


**前回調査比較** 「子」(56.9%)が最も多く、次いで、「配偶者」(20.9%)、「子の配偶者」(9.1%)などの順。

### (4) 主な介護者の性別

主な介護者の性別については、「女性」(71.2%)、「男性」(27.9%)となっています。

図表 1-4 主な介護者の性別 (単数回答)

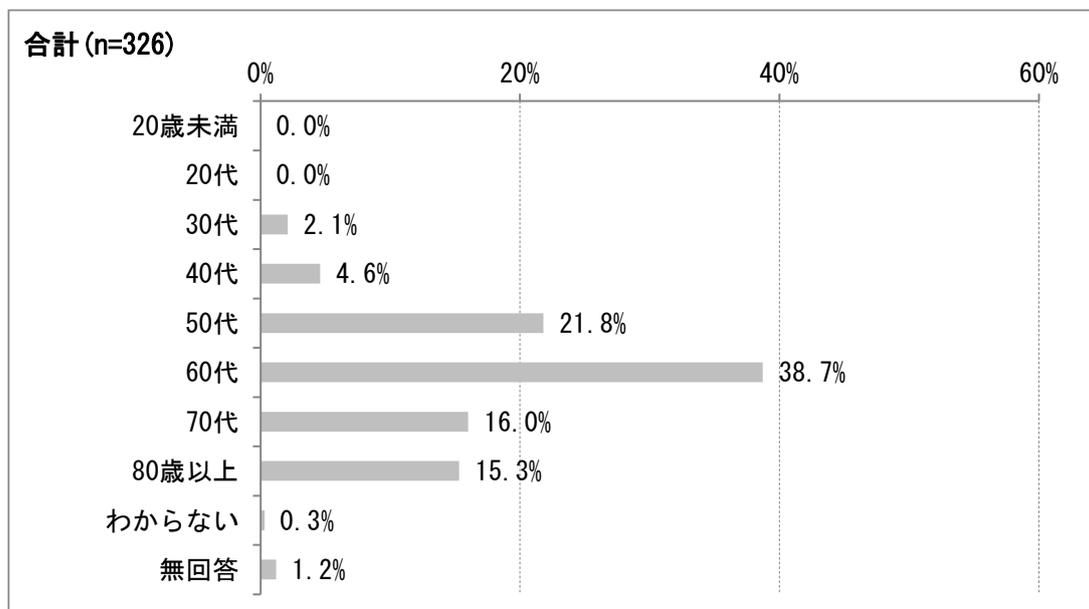


**前回調査比較** 「女性」(65.9%)、「男性」(31.3%)。

### (5) 主な介護者の年齢

主な介護者の年齢については、「60代」(38.7%)が最も多く、次いで、「50代」(21.8%)、「70代」(16.0%)、「80歳以上」(15.3%)などとなっています。

図表 1-5 主な介護者の年齢 (単数回答)

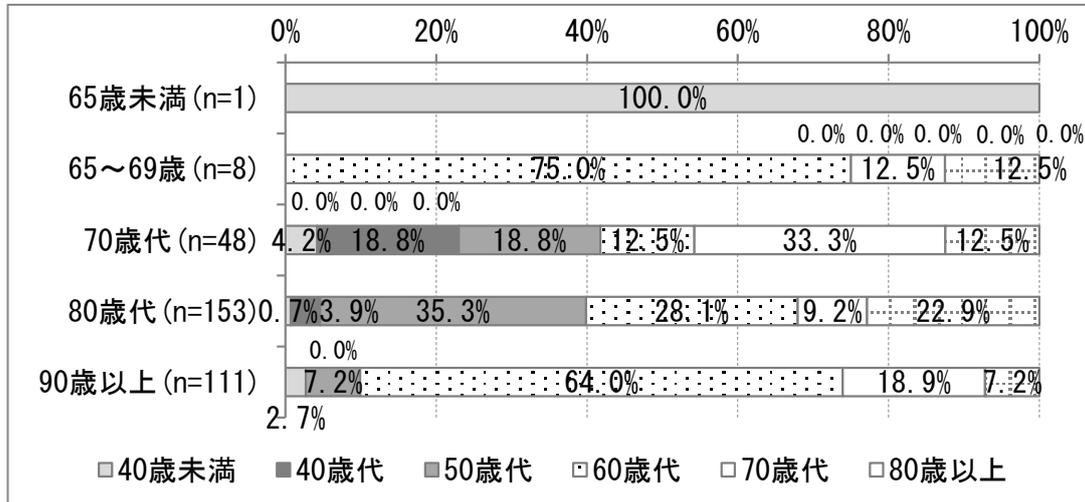


#### 前回調査比較

「60代」(30.3%)が最も多く、次いで、「50代」(26.6%)、「70代」(17.5%)、「80歳以上」(13.4%)など。

本人の年齢別・主な介護者の年齢をみると、被介護者の年齢が高くなるほど、介護者の年齢が高くなる傾向がみられますが、90歳以上では、60歳代の介護者の割合が高くなっています。

図表 1-6 本人の年齢別・主な介護者の年齢



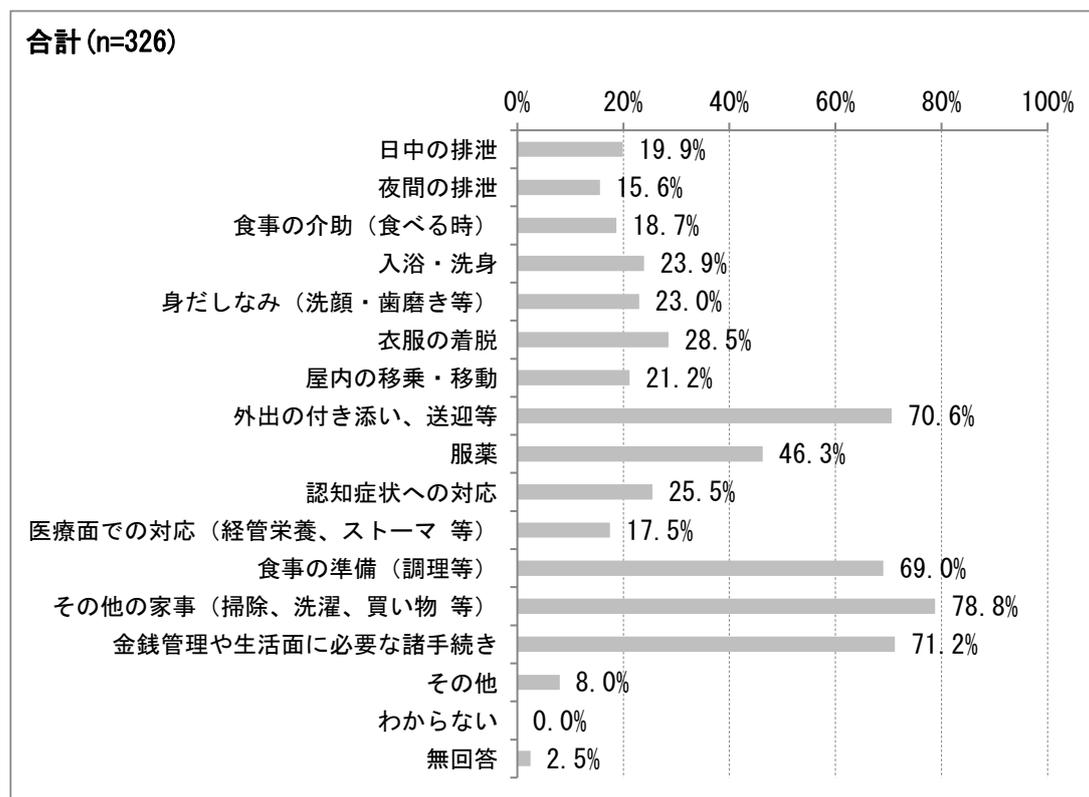
**前回調査比較**

被介護者の年齢が高くなるほど、介護者の年齢が高くなる傾向がみられる。

## (6) 主な介護者が行っている介護

主な介護者が行っている介護については、「その他の家事（掃除・洗濯・買い物 等）」(78.8%) が最も多く、次いで、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」(71.2%)、「外出の付き添い・送迎等」(70.6%)、「食事の準備（調理等）」(69.0%)、「服薬」(46.3%) などの順となっています。

図表 1-7 主な介護者が行っている介護（複数回答）



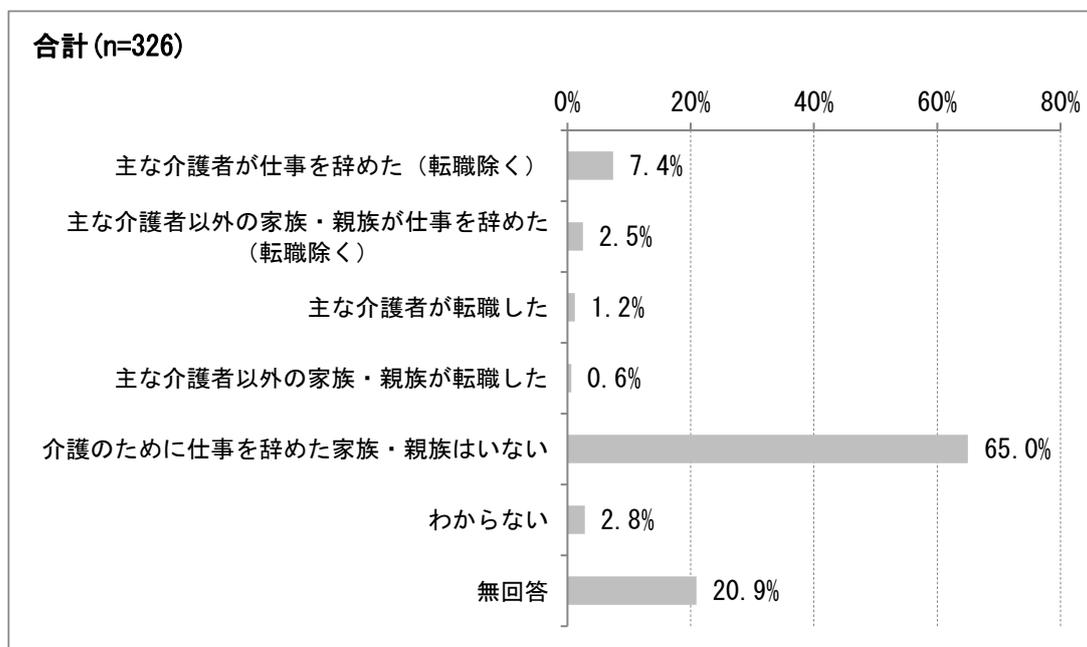
### 前回調査比較

「その他の家事（掃除・洗濯・買い物 等）」(77.8%) が最も多く、次いで、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」(65.9%)、「外出の付き添い・送迎等」(65.6%)、「食事の準備（調理等）」(65.3%)、「服薬」(43.1%) などの順。

### (7) 介護のための離職の有無

介護のための離職の有無については、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」(65.0%)が最も多く、次いで、「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)」(7.4%)などの順となっています。

図表 1-7 介護のための離職の有無 (複数回答)



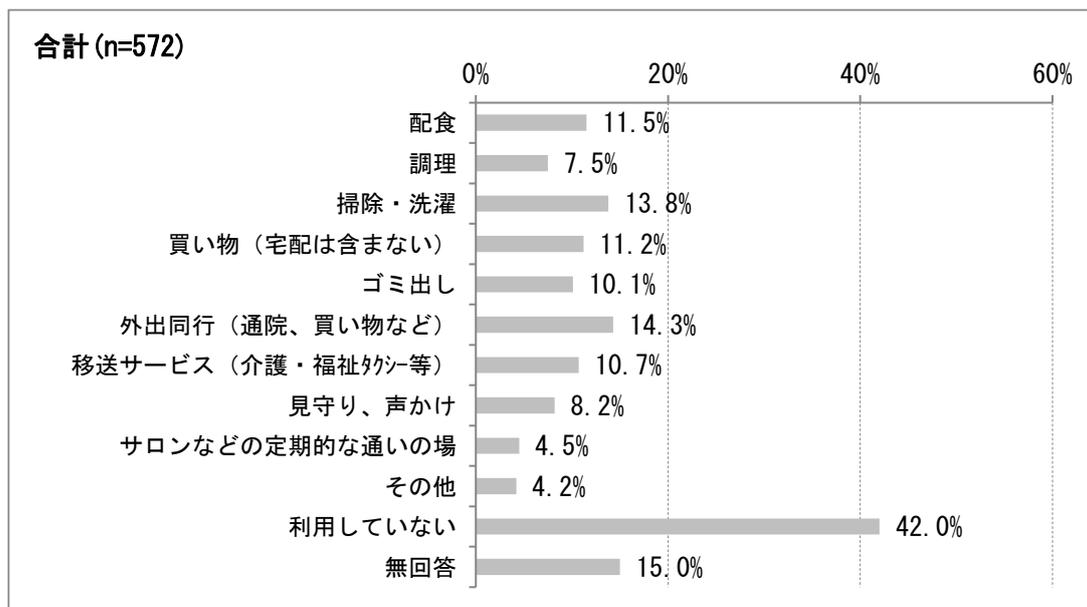
#### 前回調査比較

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」(57.8%)が最も多く、次いで、「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)」(7.8%)などの順。

## (8) 保険外の支援・サービスの利用状況

保険外の支援・サービスの利用状況については、「利用していない」(42.0%)が最も多くなっています。具体的に利用しているサービスとしては、「外出同行(通院・買い物など)」(14.3%)、「掃除・洗濯」(13.8%)、「配食」(11.5%)、「買い物(宅配は含まない)」(11.2%)、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」(10.7%)などの順となっています。

図表 1-8 保険外の支援・サービスの利用状況(複数回答)



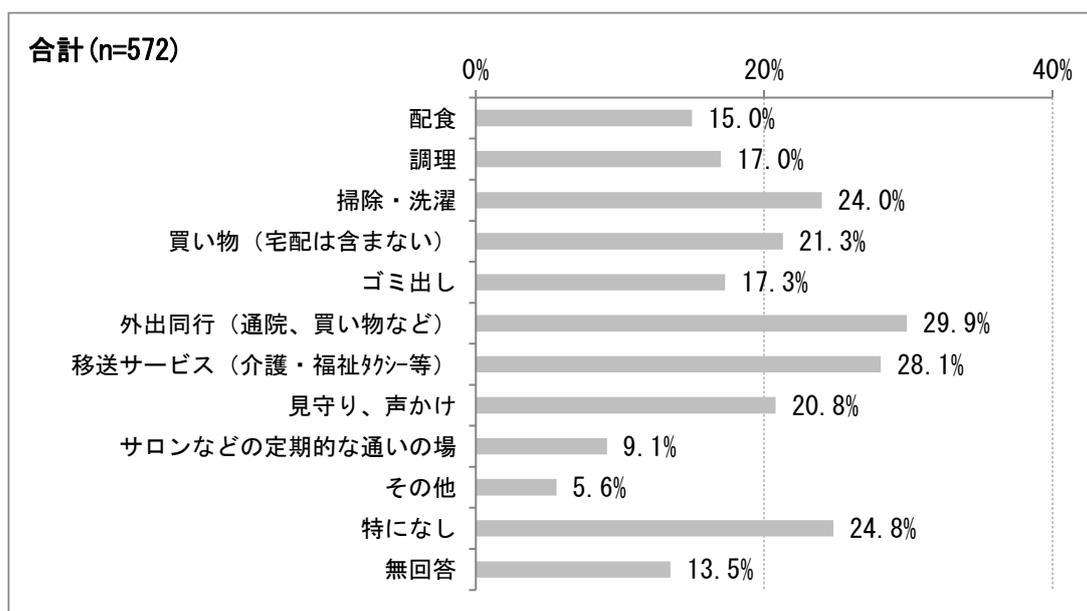
### 前回調査比較

「利用していない」(42.1%)が最も多い。具体的に利用するサービスとしては、「外出同行(通院・買い物など)」(14.3%)、「掃除・洗濯」(14.2%)、「買い物(宅配は含まない)」(10.7%)、「調理」・「ゴミ出し」(同率9.7%)などの順。

### (9) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービスについては、「外出同行（通院・買い物など）」(29.9%)、が最も多く、次いで、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」(28.1%)、「掃除・洗濯」(24.0%)、「買い物（宅配を含まない）」(21.3%)などの順となっています。なお、「特になし」は24.8%でした。

図表 1-9 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス（複数回答）

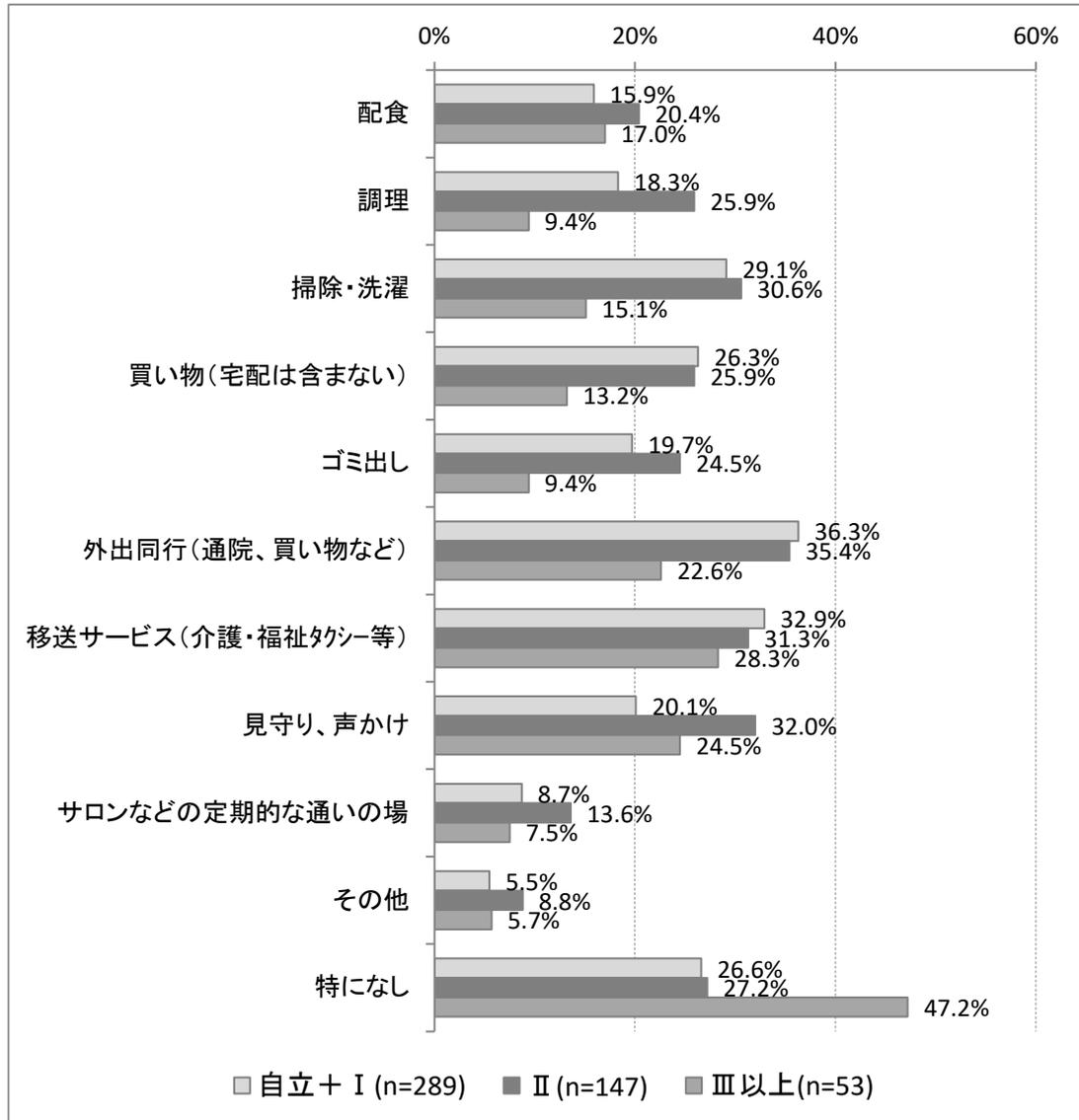


#### 前回調査比較

「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」(29.8%)が最も多く、次いで、「外出同行（通院・買い物など）」(29.2%)、「掃除・洗濯」(21.7%)、「見守り、声かけ」(21.5%)などの順。

認知症自立度別在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービスについてみると、自立+ I、IIでは「外出同行（通院・買い物など）」（36.3%・35.4%）や「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」（32.9%・31.3%）、III以上では「特になし」（47.2%）が最も多いものの、具体的には「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」（28.3%）が最も多くなっています。

図表 1-10 認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



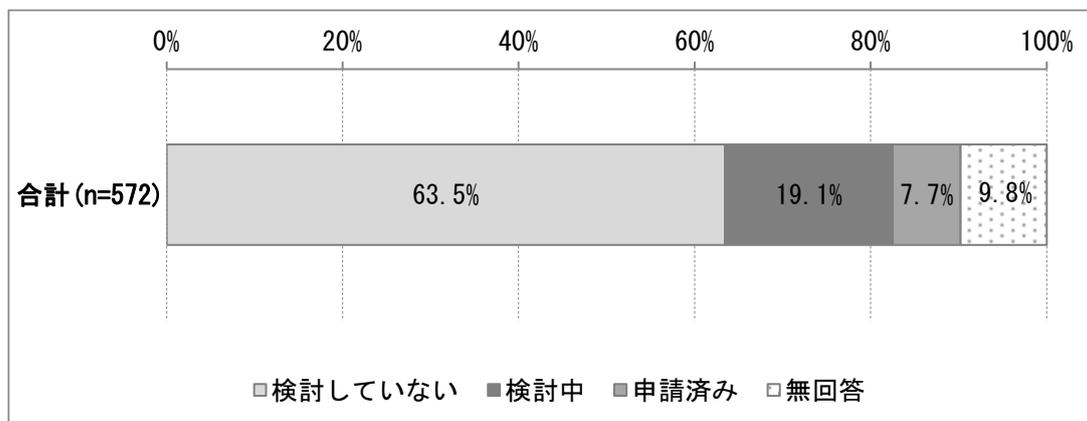
**前回調査比較**

自立+ I、IIでは「外出同行（通院・買い物など）」（31.0%・29.3%）や「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」（29.3%・33.3%）、III以上では「特になし」（33.3%）が最も多いものの、具体的には「見守り、声かけ」（27.3%）が最も多い。

## (10) 施設等検討の状況

施設等検討の状況については、「検討していない」(63.5%)、「検討中」(19.1%)、「申請済み」(7.7%)となっています。

図表 1-11 施設等検討の状況 (単数回答)

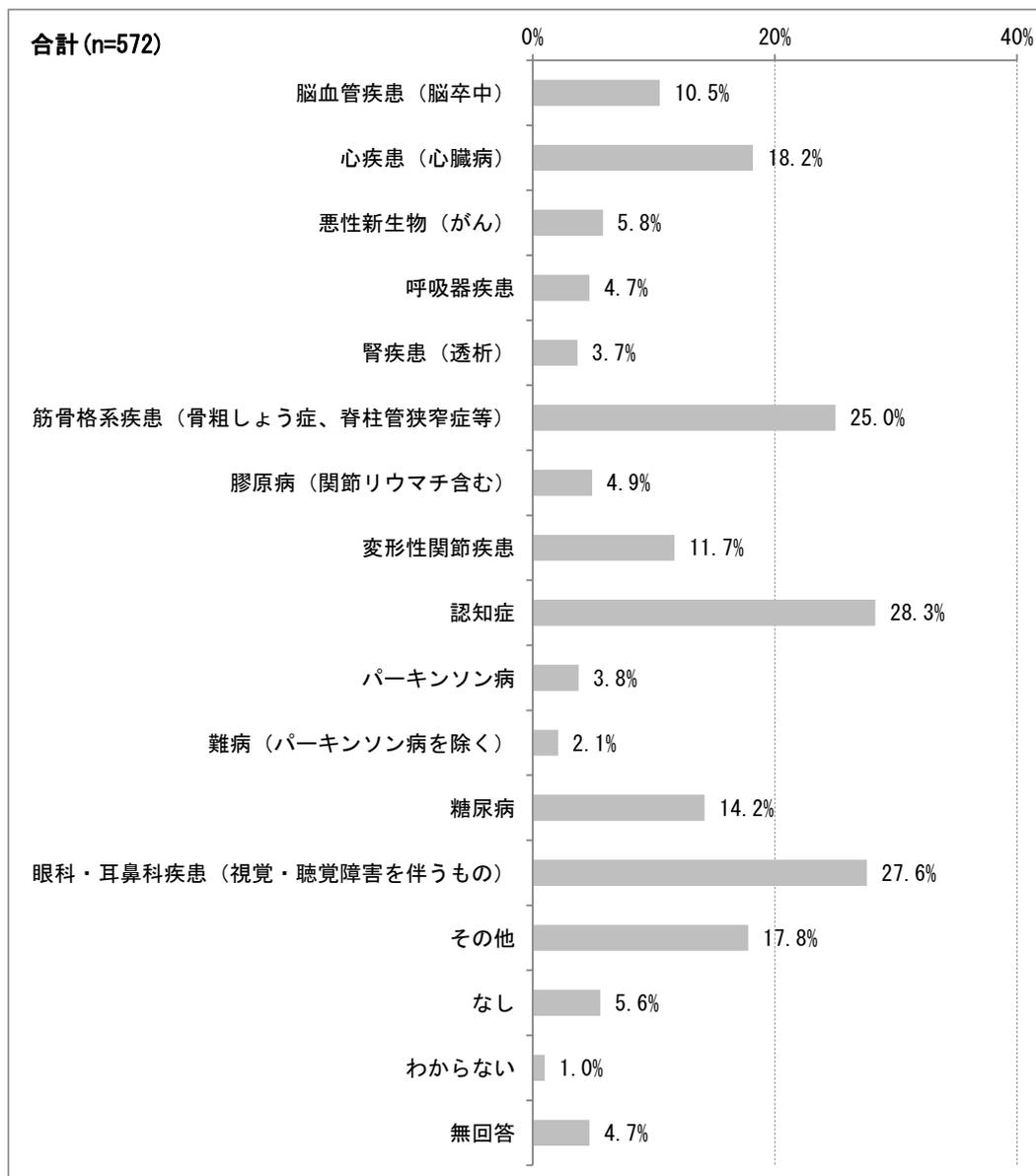


**前回調査比較** 「検討していない」(64.0%)、「検討中」(17.6%)、「申請済み」(7.0%)の順。

### (11) 本人が抱えている傷病

本人が抱えている傷病については、「認知症」(28.3%)が最も多く、次いで、「眼科・耳鼻科疾患(視覚・聴覚障害を伴うもの)」(27.6%)、「筋骨格系疾患(骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等)」(25.0%)、「心疾患(心臓病)」(18.2%)などの順となっています。

図表 1-12 本人が抱えている傷病(複数回答)

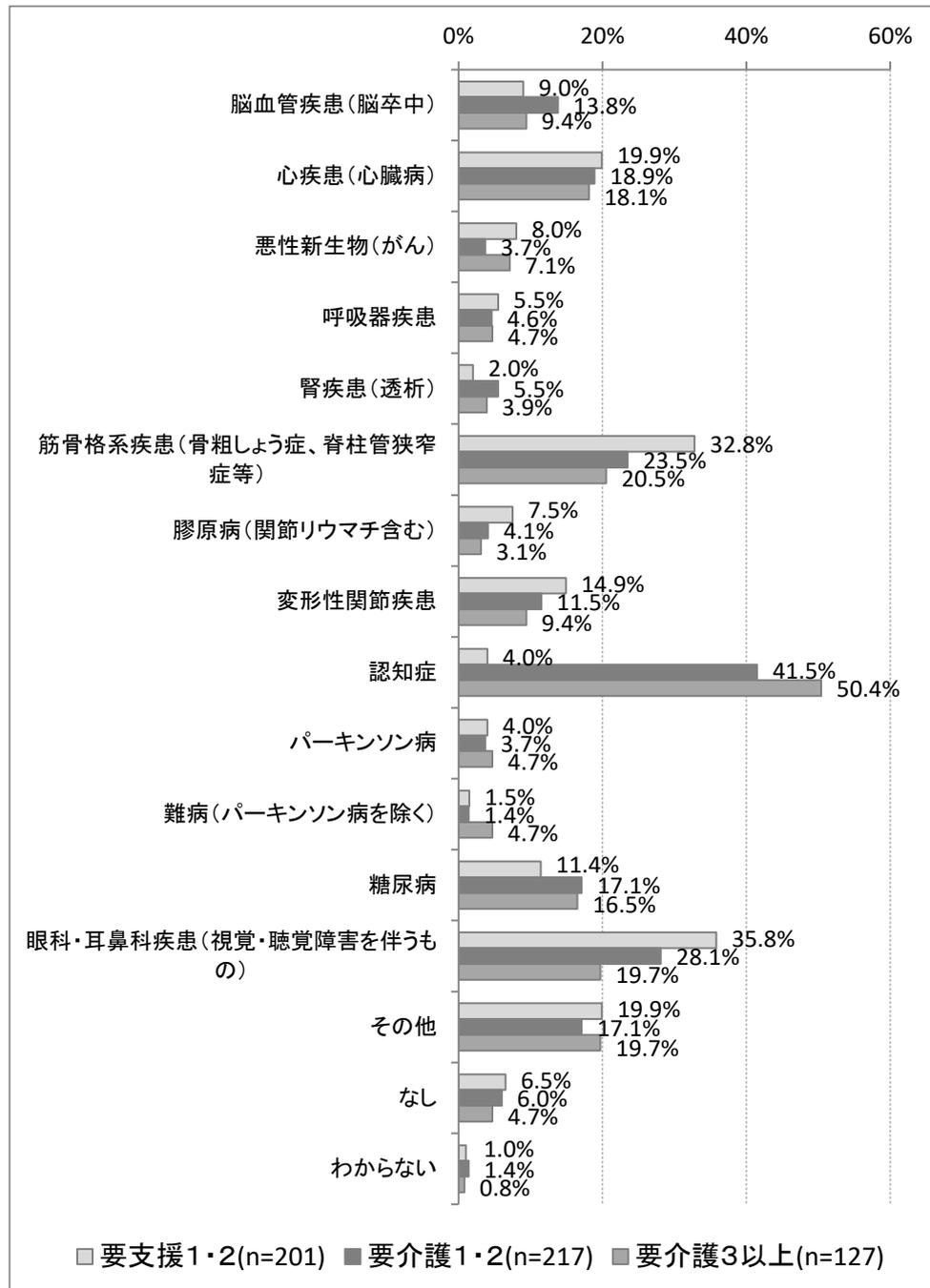


#### 前回調査比較

「眼科・耳鼻科疾患(視覚・聴覚障害を伴うもの)」(27.8%)が最も多く、次いで、「筋骨格系疾患(骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等)」(24.8%)、「認知症」(23.7%)、「心疾患(心臓病)」(16.2%)などの順。

要介護度別・抱えている傷病についてみると、要支援1・2では「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」の割合が多く、要介護1・2、要介護3以上では「認知症」の割合が多くなっています。

図表 1-13 要介護度別・抱えている傷病



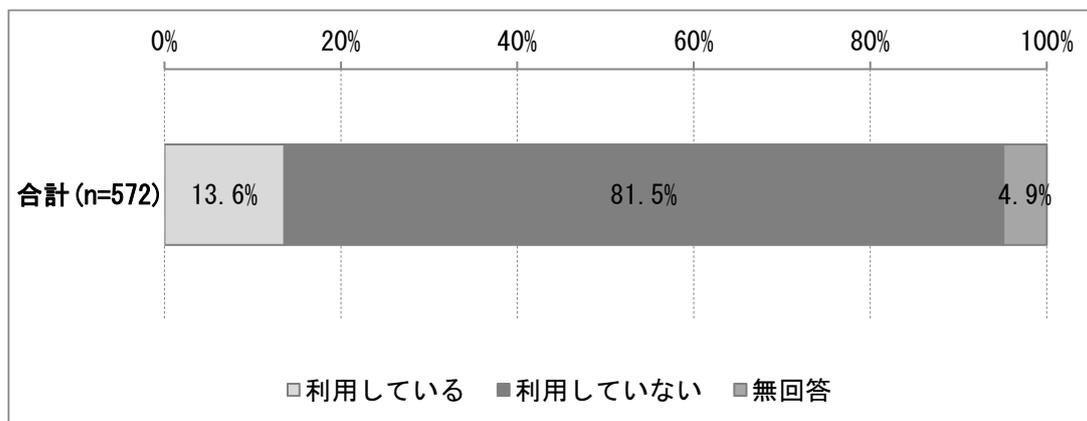
**前回調査比較**

要支援1・2では「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」の割合が多く、要介護1・2、要介護3以上では「認知症」の割合が多い。

## (12) 訪問診療の利用の有無

訪問診療の利用の有無については、「利用していない」(81.5%)、「利用している」(13.6%)となっています。

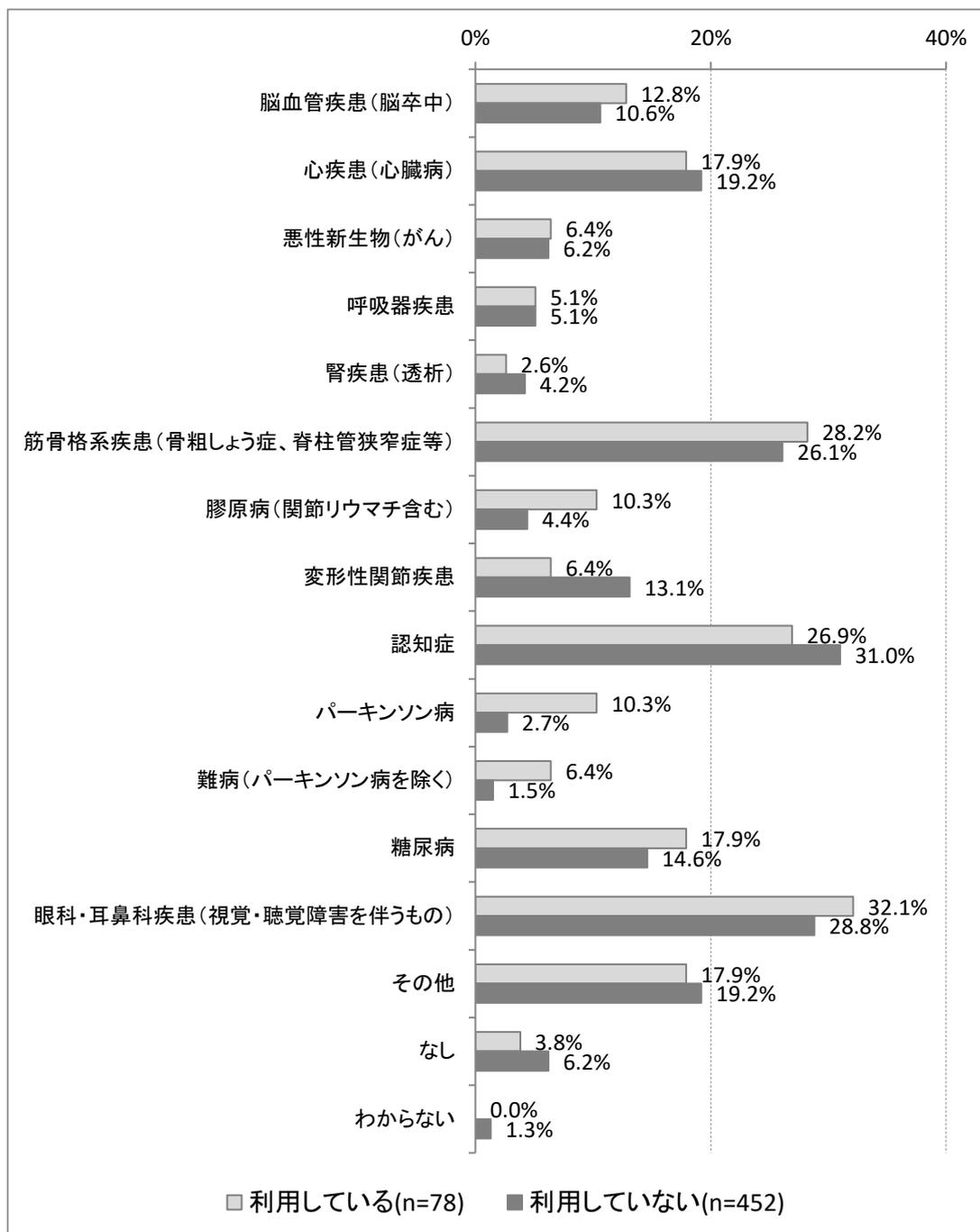
図表 1-14 訪問診療の利用の有無 (単数回答)



**前回調査比較** 「利用していない」(75.9%)、「利用している」(15.3%)。

訪問診療の利用の有無別・抱えている傷病についてみると、利用している人では、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」(32.1%)が最も多く、次いで、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」(28.2%)、「認知症」(26.9%)、「心疾患（心臓病）」・「糖尿病」(同率 17.9%)などの順となっています。なお、利用していない人でも同様の傾向がみられますが、「認知症」は31.0%と、利用している人に比べ多くなっています。

図表 1-15 訪問診療の利用の有無別・抱えている傷病



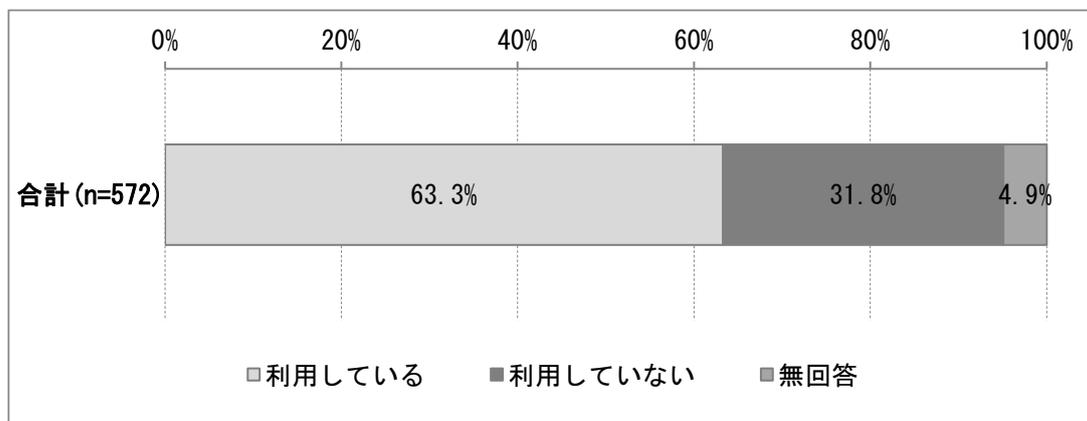
**前回調査比較**

利用している人では、「眼科・耳鼻科疾患(視覚・聴覚障害を伴うもの)」(37.3%)が最も多く、次いで、「認知症」(24.1%)、「心疾患(心臓病)」・「筋骨格系疾患(骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等)」・「糖尿病」(同率18.1%)などの順。なお、利用していない人でも同様の傾向がみられるが、「筋骨格系疾患(骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等)」は26.4%と、利用している人に比べ多い。

### (13) 介護保険サービスの利用の有無

介護保険サービスの利用の有無については、「利用している」(63.3%)、「利用していない」(31.8%)となっています。

図表 1-16 介護保険サービスの利用の有無（単数回答）

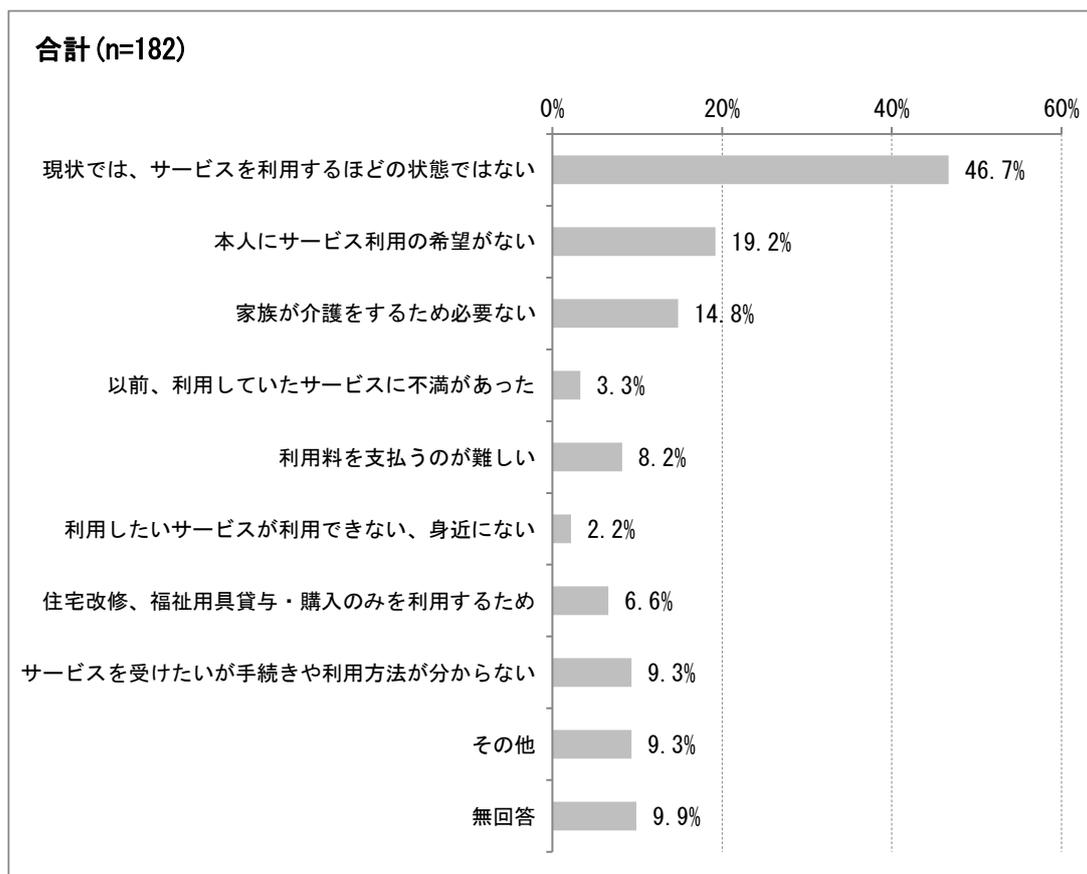


**前回調査比較** 「利用している」(61.0%)、「利用していない」(32.2%)。

#### (14) 介護保険サービス未利用の理由

介護保険サービス未利用の理由については、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」(46.7%)が最も多く、次いで、「本人にサービス利用の希望がない」(19.2%)、「家族が介護をするため必要ない」(14.8%)などの順となっています。

図表 1-17 介護保険サービスの未利用の理由（複数回答）



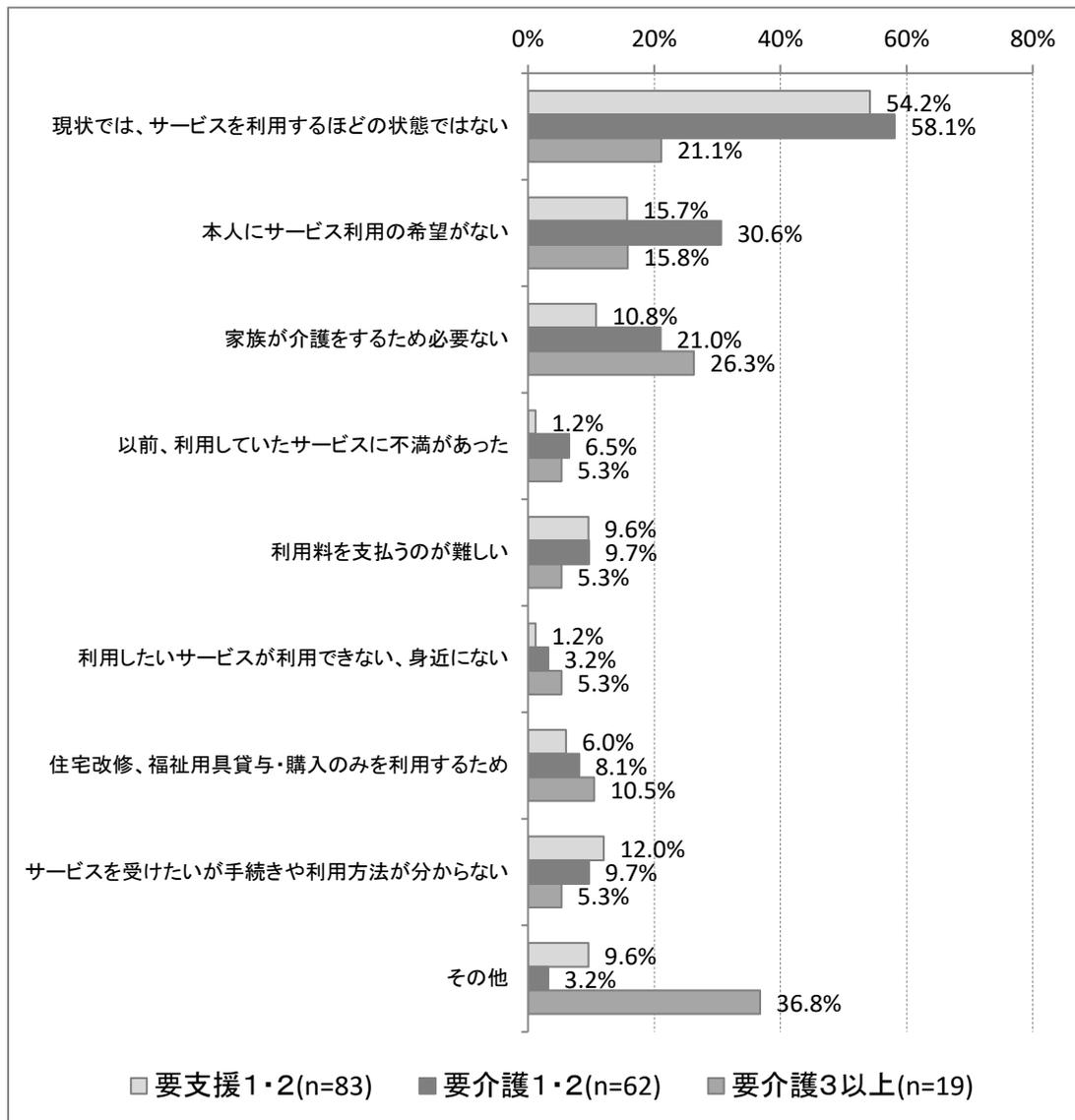
#### 前回調査比較

「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」(46.3%)が最も多く、次いで、「家族が介護をするため必要ない」(18.3%)、「本人にサービス利用の希望がない」(16.6%)などの順。

要介護度別のサービス未利用の理由をみると、要支援1・2、要介護1・2では、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が5割を超えています。

要介護3以上では、「家族が介護をするため必要ない」が26.3%と他の区分に比べ多くなっています。

図表 1-18 要介護度別のサービス未利用の理由

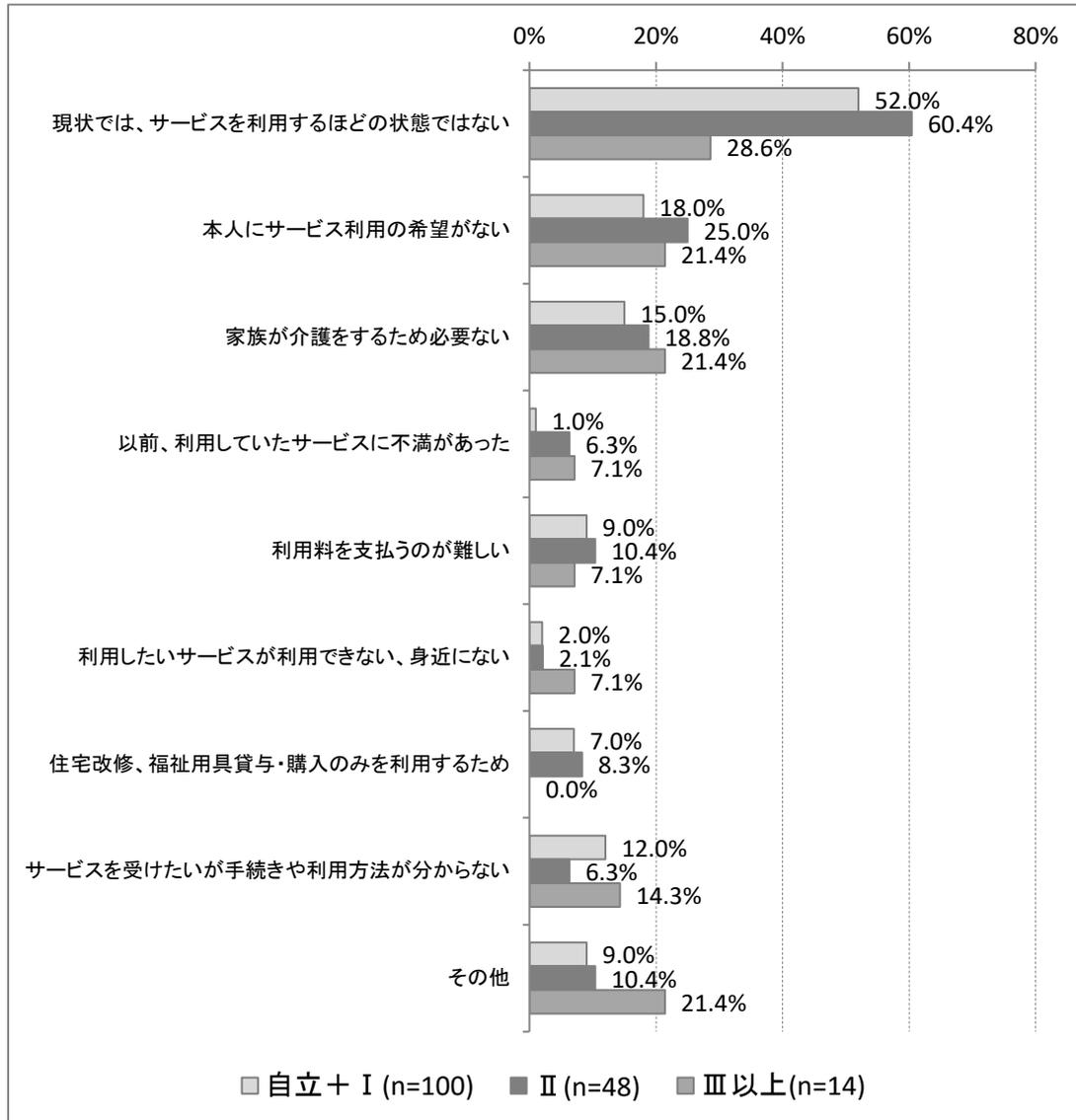


**前回調査比較**

要支援1・2、要介護1・2では、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が5割強にのぼる。要介護3以上では、「家族が介護をするため必要ない」が25.0%と他の区分に比べ多い。

認知症自立度別のサービス未利用の理由をみると、自立+ I、IIでは「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が5割強にのぼります。III以上でも「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」の割合が最も多くなっていますが、「家族が介護をするため必要ない」が21.4%と他の区分に比べ多くなっています。

図表 1-19 認知症自立度別のサービス未利用の理由



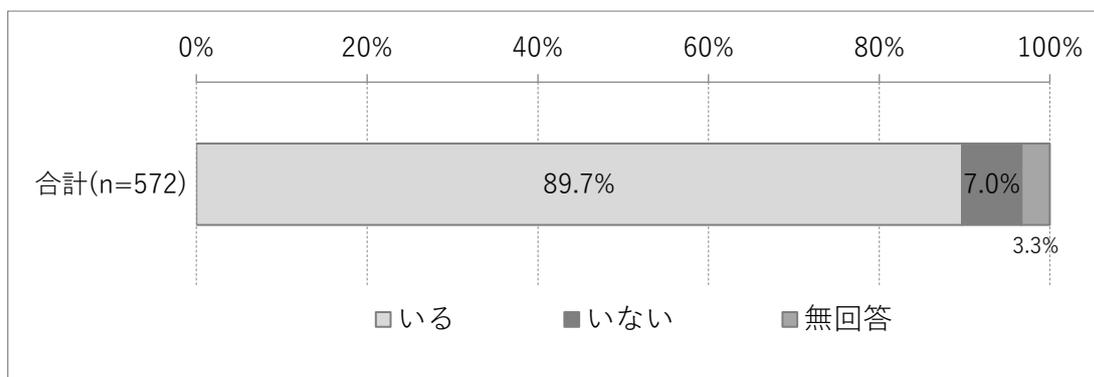
**前回調査比較**

自立+ I、IIでは「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が5割強にのぼる。III以上でも「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」の割合が最も多いが、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」も同率で、他の区分に比べて高い。

### (15) かかりつけ医師の有無

かかりつけ医師の有無については、「いる」(89.7%)、「いない」(7.0%)となっています。

図表 1-20 かかりつけ医師の有無 (単数回答)

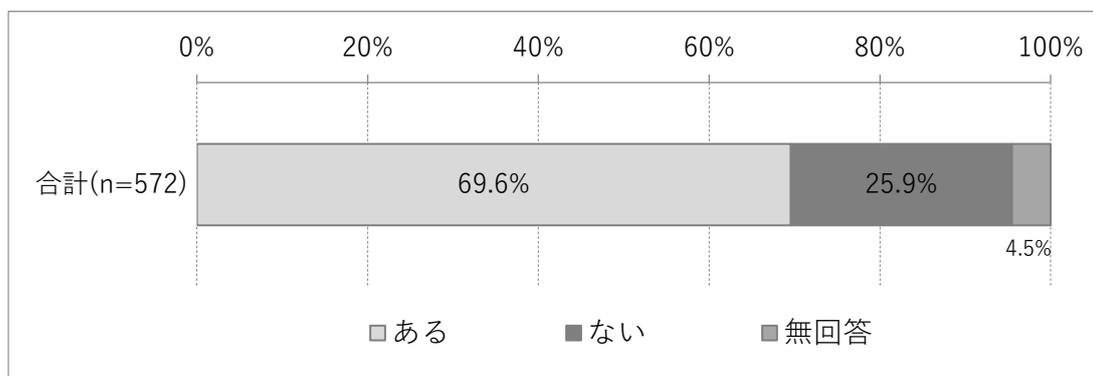


**前回調査比較** 「いる」(89.2%)、「いない」(4.2%)。

### (16) かかりつけ薬局の有無

かかりつけ薬局の有無については、「ある」(69.6%)、「ない」(25.9%)となっています。

図表 1-21 かかりつけ薬局の有無 (単数回答)

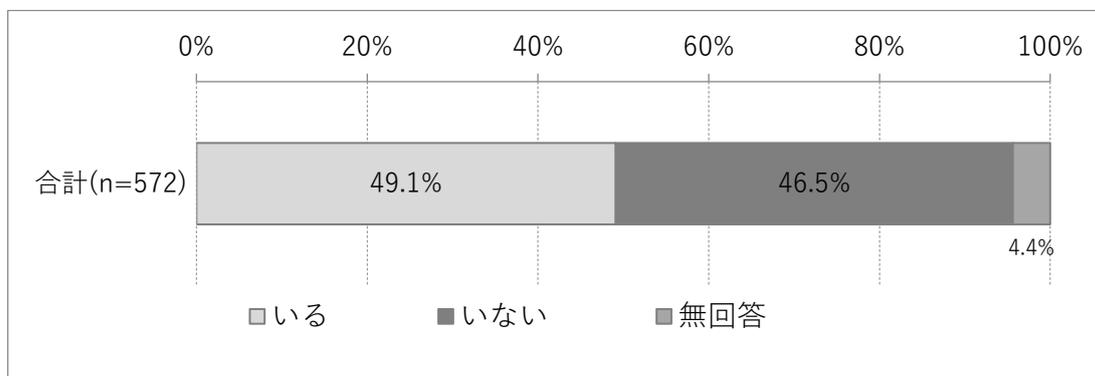


**前回調査比較** 「ある」(69.3%)、「ない」(22.4%)。

### (17) かかりつけ歯科医師の有無

かかりつけ薬局の有無については、「いる」(49.1%)、「いない」(46.5%)となっています。

図表 1-22 かかりつけ歯科医師の有無 (単数回答)

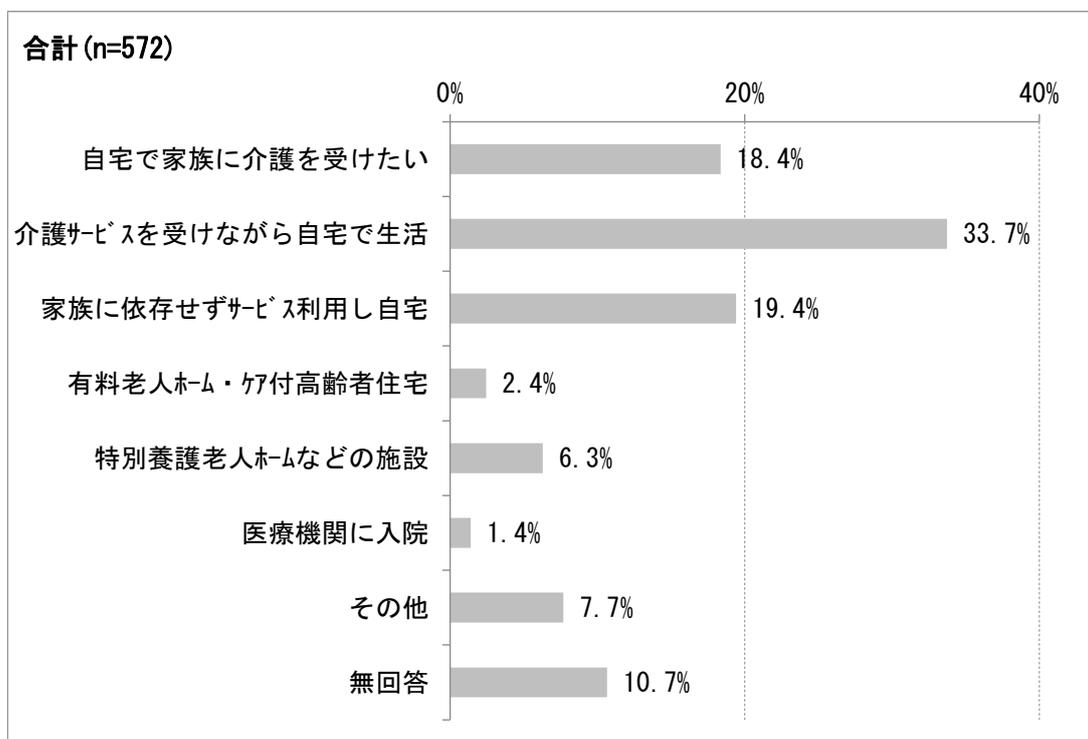


**前回調査比較** 「いる」(51.8%)、「いない」(40.1%)。

## (18) 本人の介護の希望

本人の介護の希望については、「介護サービスを受けながら自宅で生活」(33.7%)、「家族に依存せずサービス利用し自宅」(19.4%)、「自宅で家族に介護を受けたい」(18.4%)、「特別養護老人ホームなどの施設」(6.3%)などとなっています。

図表 1-22 本人の介護の希望 (単数回答)



### 前回調査比較

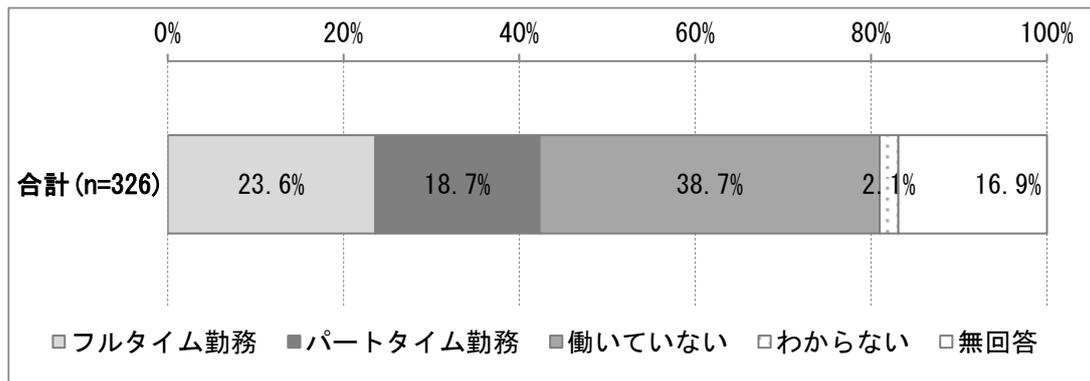
「介護サービスを受けながら自宅で生活」(30.3%)、「家族に依存せずサービス利用し自宅」(21.1%)、「自宅で家族に介護を受けたい」(15.8%)、「特別養護老人ホームなどの施設」(8.1%)などの順。

## 2 主な介護者様用の調査項目

### (1) 主な介護者の勤務形態

主な介護者の勤務形態については、「働いていない」(38.7%)、「フルタイム勤務」(23.6%)、「パートタイム勤務」(18.7%)、「わからない」(16.9%)となっています。

図表 2-1 主な介護者の勤務形態（単数回答）



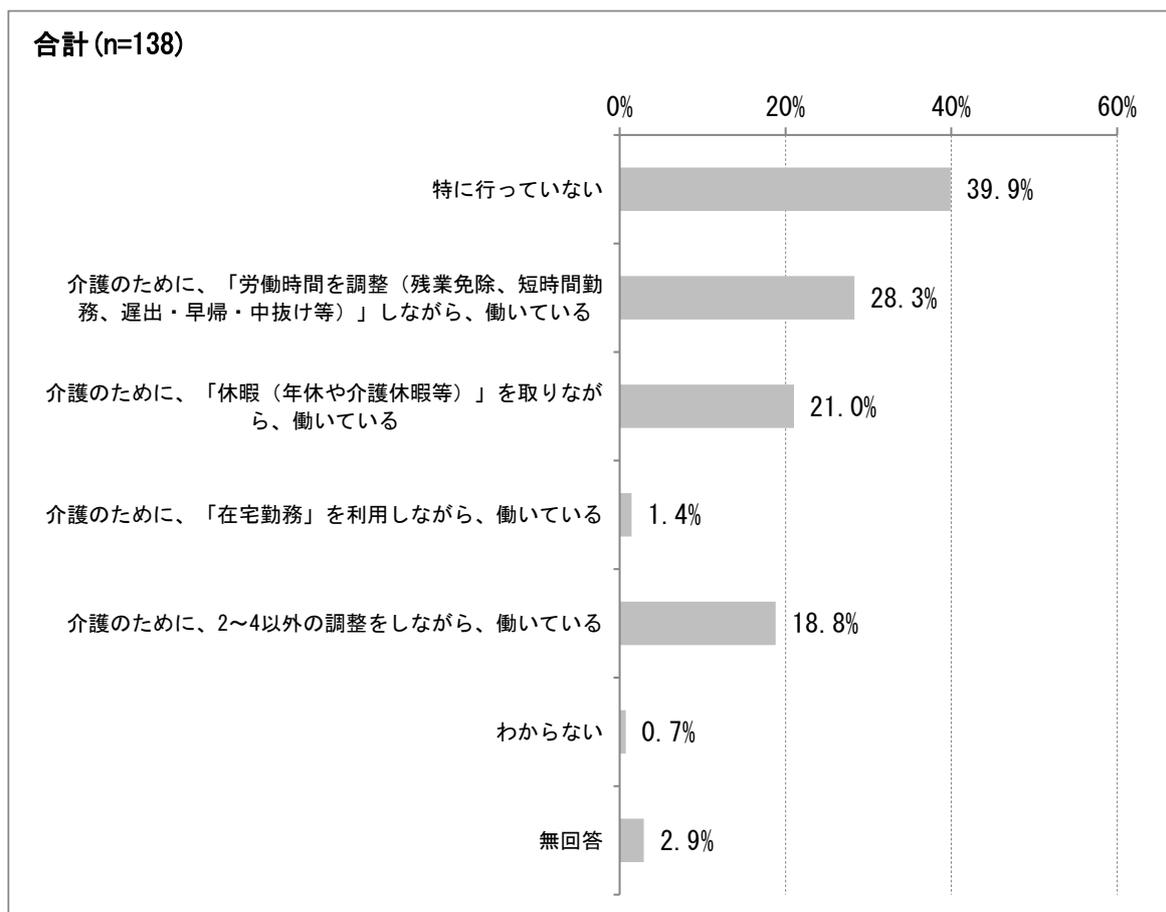
#### 前回調査比較

「働いていない」(37.8%)、「フルタイム勤務」(26.3%)、「パートタイム勤務」(17.2%)、「わからない」(0.9%)の順。

## (2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況

主な介護者の方の働き方の調整の状況については、「特に行っていない」(39.9%)が最も多くなっています。具体的な調整の状況については、「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」(28.3%)が最も多く、次いで、「介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている」(21.0%)などの順となっています。

図表 2-2 主な介護者の働き方の調整状況(複数回答)



### 前回調査比較

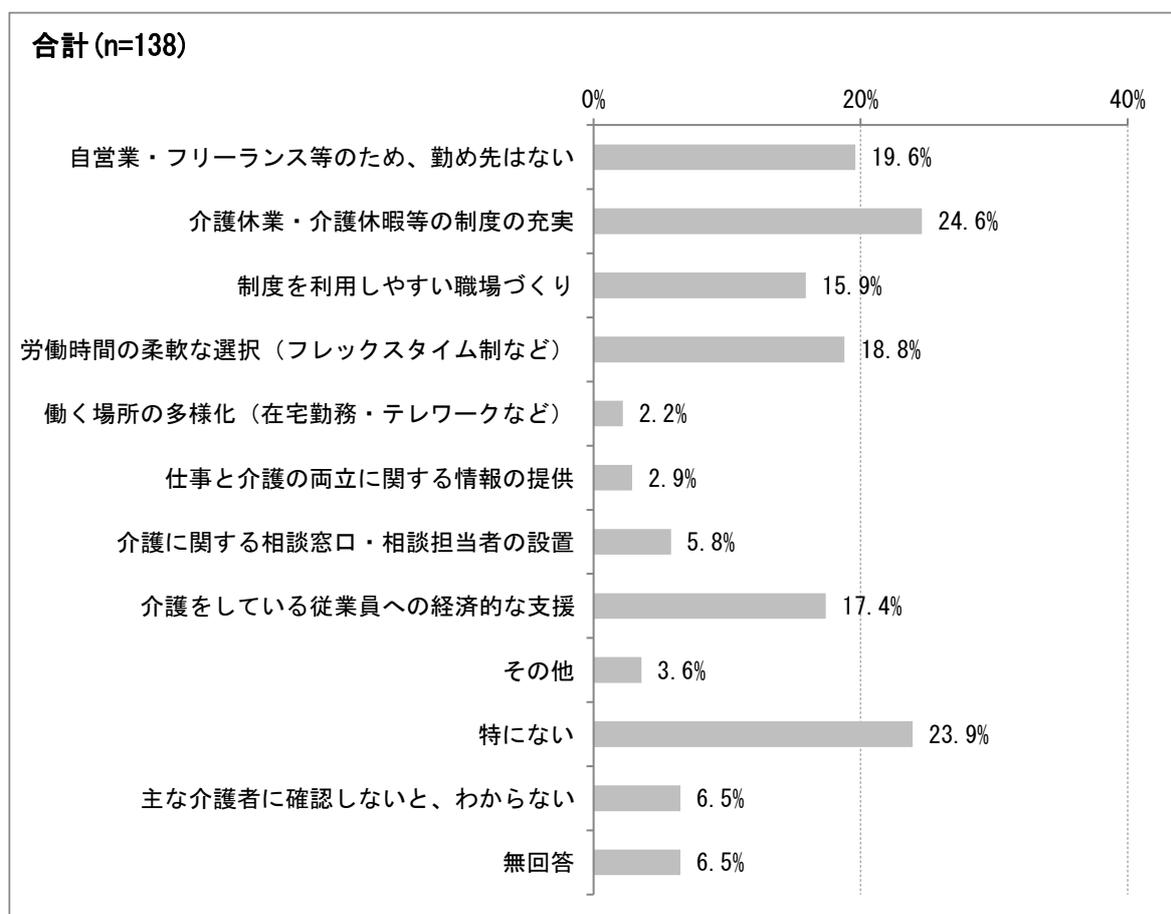
「特に行っていない」(30.1%)が最も多いものの、具体的な調整の状況については、「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」(18.4%)が最も多く、次いで、「介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている」(14.3%)などの順。

### (3) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援

就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援については、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」(24.6%)が最も多く、次いで、「自営業・フリーランス等のため、勤め先はない」(19.6%)、「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」(18.8%)、「制度を利用しやすい職場づくり」(15.9%)などの順となっています。

なお、「特にない」は23.9%となっています。

図表 2-3 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援(複数回答)



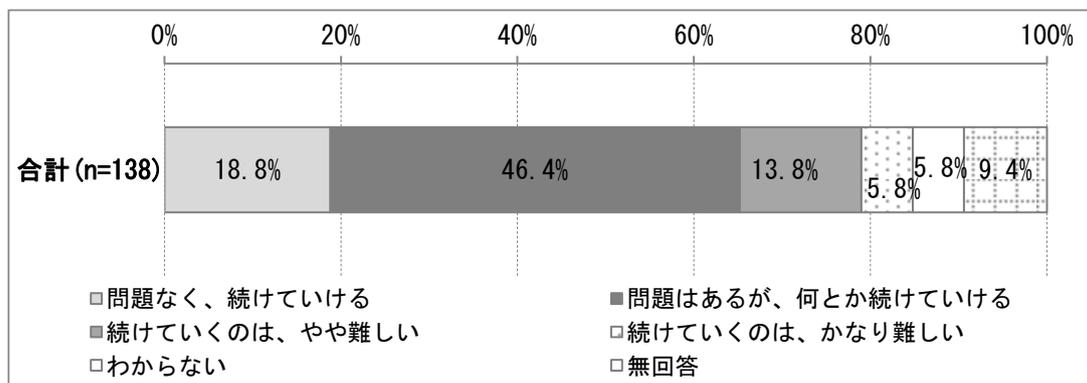
#### 前回調査比較

「介護休業・介護休暇等の制度の充実」(19.9%)が最も多く、次いで、「制度を利用しやすい職場づくり」(16.3%)、「自営業・フリーランス等のため、勤め先はない」(14.3%)、「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」(10.7%)などの順。

#### (4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

主な介護者の就労継続の可否に係る意識については、「問題はあるが、何とか続けていける」(46.4%)、「問題なく、続けていける」(18.8%)、「続けていくのは、やや難しい」(13.8%)、「続けていくのは、かなり難しい」・「わからない」(同率5.8%)となっています。

図表 2-4 主な介護者の就労継続の可否に係る意識 (単数回答)

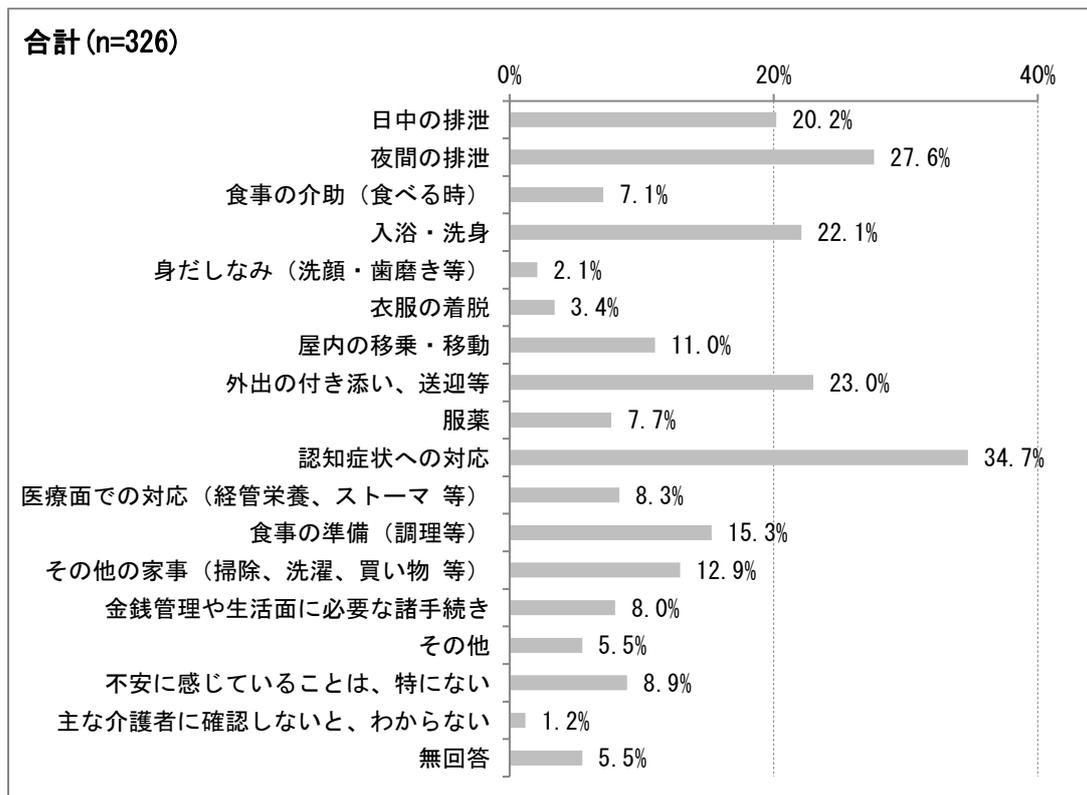


**前回調査比較** 「問題はあるが、何とか続けていける」(38.8%)、「問題なく、続けていける」(18.4%)、「続けていくのは、やや難しい」(7.1%)、「わからない」(2.6%)、「続けていくのは、かなり難しい」(1.5%)の順。

### (5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護については、「認知症状への対応」(34.7%)が最も多く、次いで、「夜間の排泄」(27.6%)、「外出の付き添い、送迎等」(23.0%)などの順となっています。

図表 2-5 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護（複数回答）

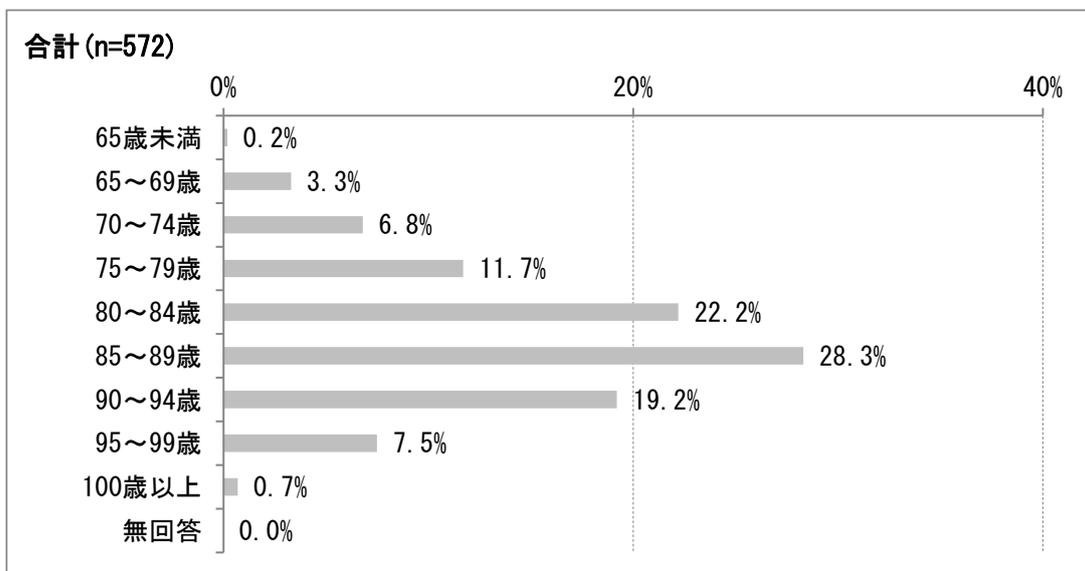


### 3 要介護認定データ

本調査で使用した要介護認定データは、次のとおりです。

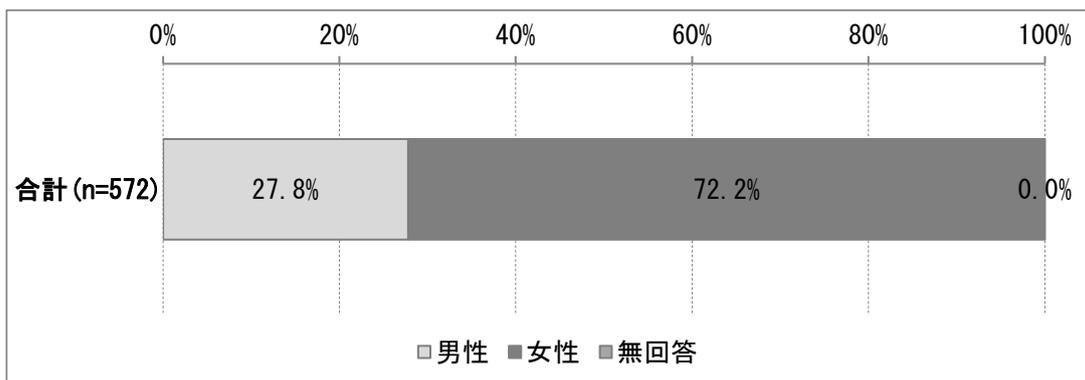
#### (1) 年齢

図表 3-1 年齢



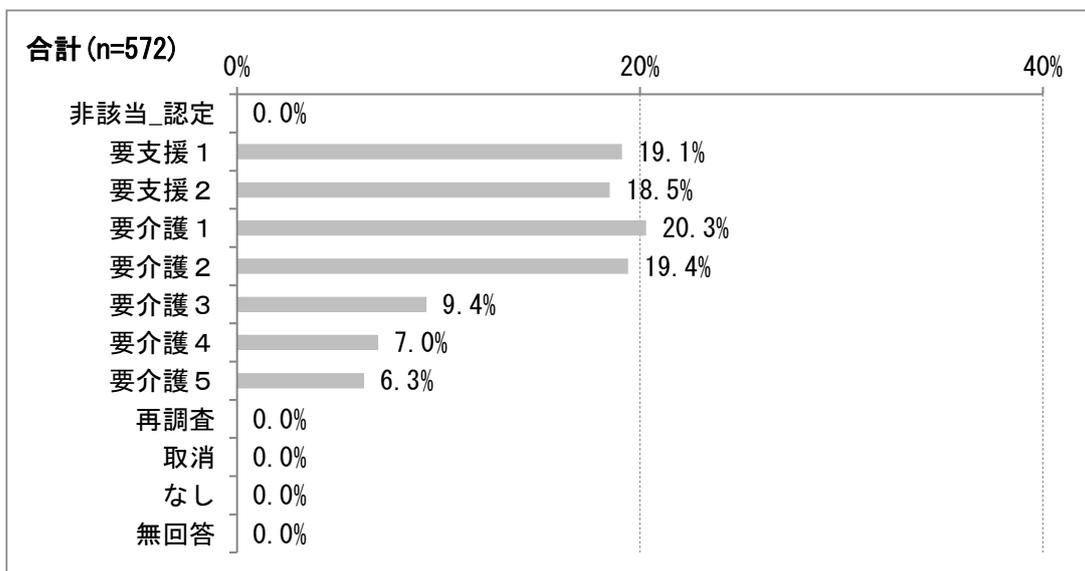
#### (2) 性別

図表 3-2 性別



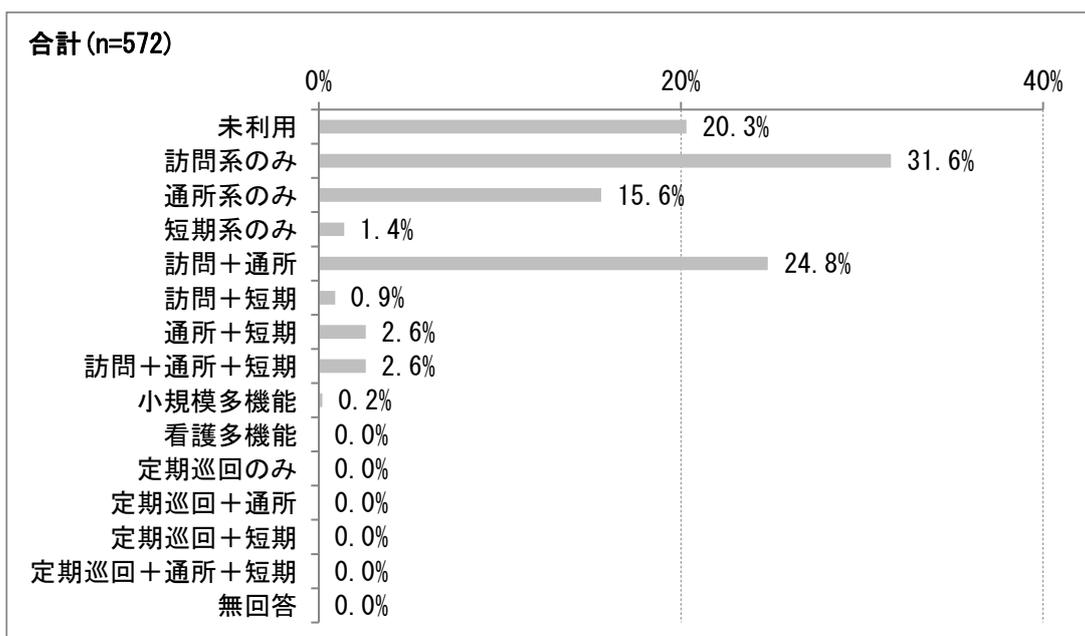
(3) 二次判定結果 (要介護度)

図表 3-3 二次判定結果



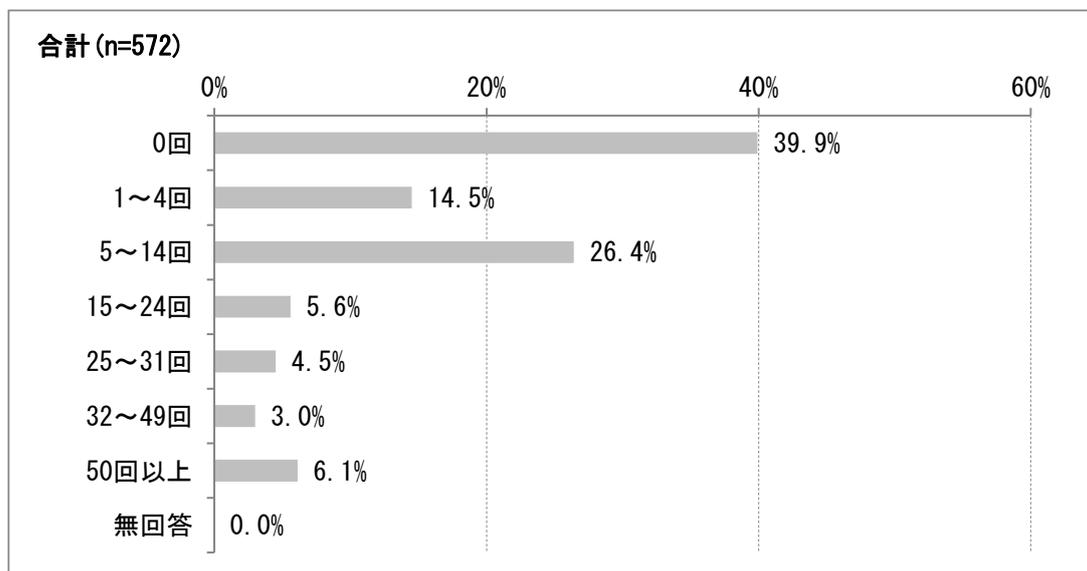
(4) サービス利用の組み合わせ

図表 3-4 サービス利用の組み合わせ



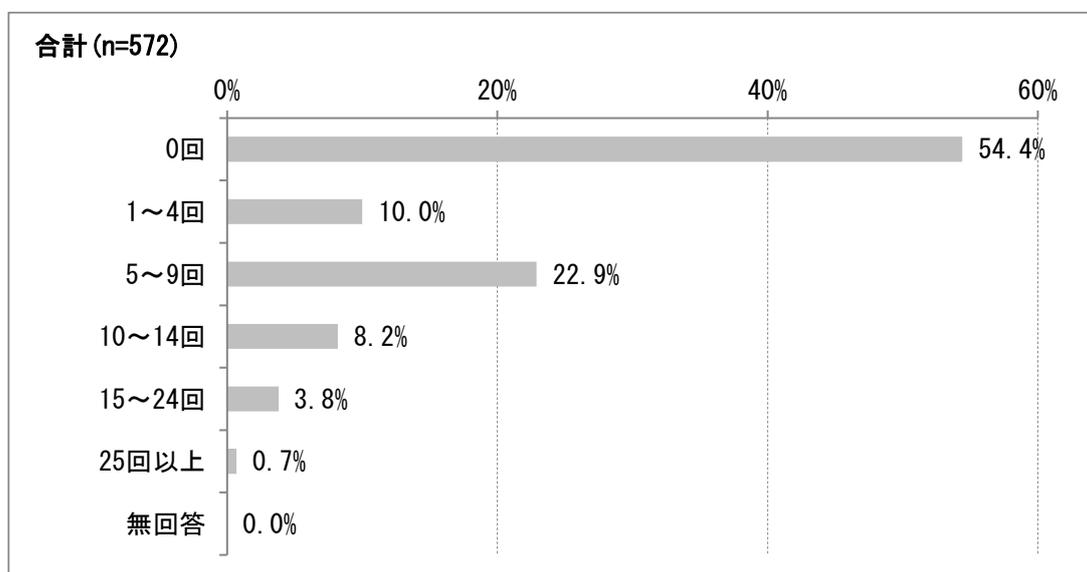
### (5) 訪問系サービスの合計利用回数

図表 3-5 サービスの利用回数（訪問系）



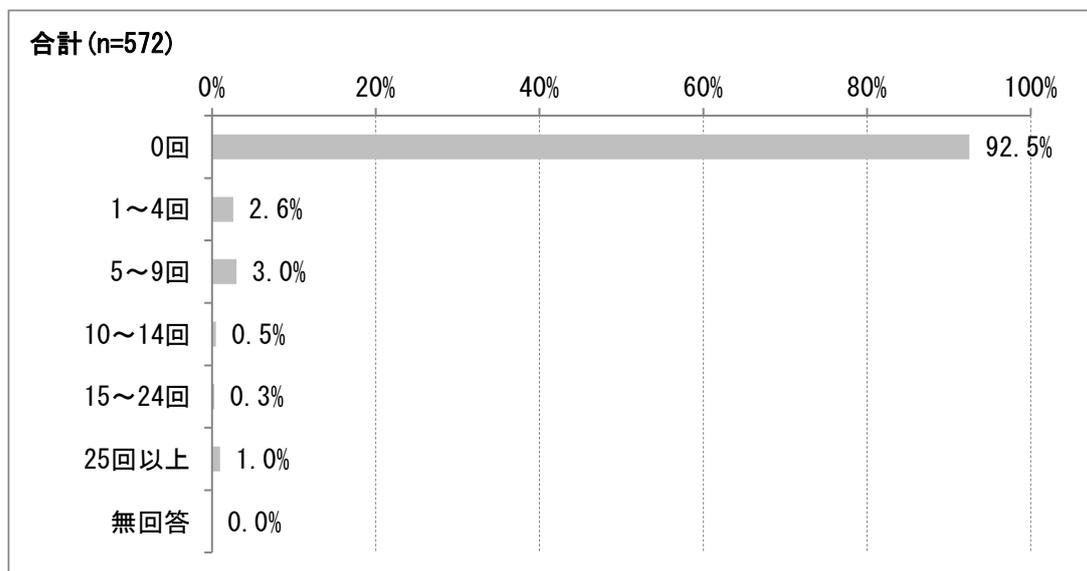
### (6) 通所系サービスの合計利用回数

図表 3-6 サービスの利用回数（通所系）



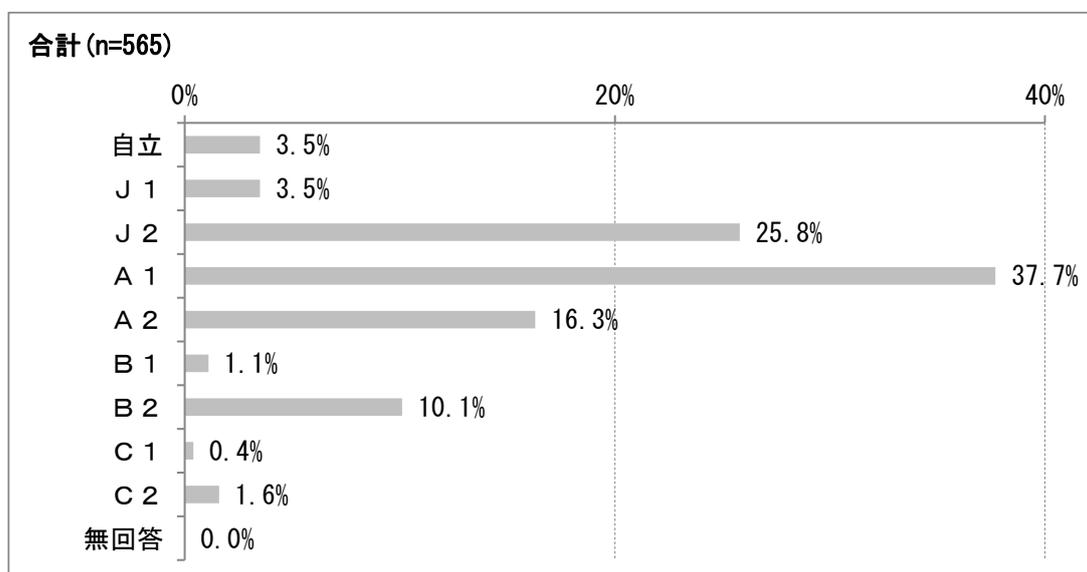
(7) 短期系サービスの合計利用回数

図表 3-7 サービスの利用回数 (短期系)



(8) 障害高齢者の日常生活自立度

図表 3-8 障害高齢者の日常生活自立度



(9) 認知症高齢者の日常生活自立度

図表 3-9 認知症高齢者の日常生活自立度

